

酒田港へ外航クルーズ船を

誘致目指しシンポ、現状や課題探る



酒田港に海外からのクルーズ船寄港に向けた「酒田港外航クルーズシンポジウム」が21日、酒田市のカーデンパレスみずほで開かれ、運航する船会社や地元の観光関係者らによるパネルディスカッションなどを通じて、寄港の現状や課題を考えた。

酒田市と県が誘致に向け、機運を高めようと開いた。酒田港には近年、乗客数百人規模の国内クルーズ船は寄港しているが、数千人規模になる外航クルーズ船はまだ寄港していない上、本

酒田港への外航クルーズ船誘致の課題を採ったパネル討論

県は東北地方で唯一、外航クルーズ船誘致に向けた推進組織がない。市民や県内の観光関係者ら約300人が参加した。

丸山至酒田市長、吉村美栄子知事のあいさつに続き、国土交通省の江島潔大臣政務官が来賓あいさつで「酒田港はポテンシャル(可能性)が高い。乗客3000

14000人のクルーズ船が接岸できる上、山形県は食べ物、自然、歴史も魅力的。総力を挙げて誘致が実現するように」と述べた。同様に来賓としてクルーズ船観光振興議員連盟会長の西川公也衆院議員、同顧問の岸宏一参院議員、加藤鮎子衆院議員、東方水上シル

クロード貿易促進協議会の新田嘉一会長もそれぞれ誘致に向け努力を誓った。

基調講演では、クルーズ船観光振興議員連盟幹事の大沼みずほ参院議員と、外航クルーズ船を運航している「カーニバル・シヤパン」の猪股富士雄プリンセス・クルーズ営業部長の2人が登壇。このうち大沼氏は「クルーズ船を取り巻く昨今の情勢」と題し、アジアで近年、経済成長に伴いクルーズ船の市場が急速に拡大している現状や、酒田港にクルーズ船を誘致する場合、岸壁に係船柱や防舷材などの拡充、全体的な周遊ツアー開発の必要性などを指摘し、「山形が世界に輝くには、酒田から発信を」と訴えた。

女みなと会議の佐藤香奈子理事、小野真哉県観光経済交流局長の4人が山形新聞社の伊藤哲哉論説委員長らの司会で意見を交わした。

このうち猪股氏は「酒田港は十分に受け入れ能力があるが、2年半前までに運航日程を決める」「オプショナルツアーは、内容は良くてもキャパ(参加許容人数)が少ない」と問題。埠頭での入港・出港時のもてなし、フリーWiFi、観光地とのシャトルバスの整備などが課題」とした。

小野氏は、吉村知事が会長を務める「プロスパーポートさかたポータル」協賛会に新年度、「外航クルーズ船誘致部会」を立ち上げる計画を示し、「係船柱や防舷材整備など準備し、(大型船寄港時の安全性などを判断する)航行安全委員会は新年度の前半に結論を出したい」とした。

続くパネルディスカッションでは、猪股氏と高見屋旅館(山形市)の岡崎弥平社長、NPO法人酒田港